

平成27年度 第2回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：平成27年7月27日（月） 午後2時00分から午後3時30分

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：澤井秀座長、中川雅志座長代理、粕谷健一郎委員、高木玲子委員、龍田昌樹委員、小松芳幸委員、成田将之委員、伏屋涉委員、向井茂委員、笠井孝一委員、
（計10名）

オブザーバー：高田大資（石狩振興局地域政策部地域政策課主査）、中野亮二（江別商工会議所）

欠席委員：福本庸委員、本間雅彦委員（計2名）

事務局：北川企画政策部長、三上次長、白石企画課長、千葉政策推進課長、菅野企画係長、大槻企画課主査、坂本企画課主査、小島企画課主事

会議概要

1 開会

2 委員の紹介

3 （1）江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議における検討の進め方について 【有識者会議、まち・ひと・しごと創生推進本部会議、意見交換会の説明】（事務局）

【質疑応答】

○龍田委員

ただいま、ご説明いただいた「まち・ひと・しごと創生推進本部会議」が並行して開催され、そちらが主たる軸となっており、有識者会議は各有識者の立場からコメントを出していく場と認識しています。その上で、「まち・ひと・しごと創生推進本部会議」はどのような構成メンバーで議論されているのか、また、議事録等の閲覧が可能なのか質問させていただきたいと思います。

○事務局

推進本部会議は市長を本部長とし、副市長・水道事業管理者・教育長が副本部長を務め、市役所各部の部長職を本部員として構成しています。7/24（金）に第2回の推進本部会議を開催したところです。会議録等は作成しておりませんが、議論の経過等については必要に応じて説明していきたいと考えています。

○龍田委員

推進本部会議は市長、副市長、部長職等で構成された公式な会議が開催されており、それを受けて本日、当会議が開催されているという認識でよろしいですか。

○事務局

公式な庁内会議と位置付けております。

○龍田委員

わかりました。

【その他質疑なし】

(2) 江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子（案）について

【総合戦略の骨子（案）の説明】（事務局）

【質疑応答】

○中川委員

骨子の基本目標に主な施策が書かれてあり、えべつ未来戦略の戦略プロジェクトの項目をあてはめているものと思います。会議の意見により、新たなものを加えることは可能でしょうか。

○事務局

今回お示ししているのは骨子の案であり、基本目標に応じた基本的な方向です。そのベースとなるのは総合計画であり、大きな枠組みの中では総合計画の施策が基本になるだろうと考えています。ただし、具体的な施策については、総合戦略の中で考えたときに、人口減少への対応といった新しい要素も出てくると考えられます。そうした部分については、本部会議でも検討しておりますし、当会議で提案があれば肉付けという形で考えています。

○中川委員

例えば、骨子の中に基本目標③若い世代の出産・子育てを支援するという項目があります。これは、社会全体で産み育てる環境づくりという背景があるものと思います。しかし、子育て世代を中心とするのであれば、江別の施策の中では教育関係にも良いものがあると思いますので、方向性の中でもう少し見出しとして出したほうが良いのではないかと思います、質問しました。

総合計画とのすり合わせということは理解しますが、この総合戦略と江別市の総合計画とを合わせて見るわけではないので、総合戦略の中で教育に力を入れていることや、健康づくりに配慮した施策をやっているというものが書かれていても、整合性が取れるのではないかと思います。いずれ意見を言える場があれば、検討していただきたいと思います。

○龍田委員

骨子のうち、基本目標②えべつの新しい人の流れを作るという項目の中で、施策の基本方針として（１）大学が活躍するまちづくりというものが書かれています。これは、様々なデータをもとに、大学生を有効に活用できていないのではないかとこの憂

いがあるの施策と思います。

このことに関して、データがあれば教えていただきたいのですが、市内 4 大学の学生のうち江別出身者の率や市外からの率というものはわかるでしょうか。というのは、江別市人口ビジョン中間報告で示されたアンケートの中で、大学生が江別に就職しない理由として、地元に戻るからというものが 8.8%あります。こうした方に対しては、地域創生を頑張ったところで、手が打てないのではないかとということが一つあります。また、同じアンケートの中で、市外で働いてみたいというものがあります。これは市内出身者の意見ではないでしょうか。江別で育って大学まで通い、そろそろ親元を離れたいということではないかと思います。そのようなことから、大学生の中で親元から通っている方がどの程度いるのかということをお聞きしたいと思います。

大学が活躍するまちづくりという点から新しい人の流れを作るということを考えられていると思いますが、教育の最終段階である大学からまちづくりに参加していただいても、愛着が芽生えるかということには疑問があります。今回、江別高校から小松委員がいらっしゃるのでお聞きしたいのですが、高校のタイミングでまちづくりや協働のようなプログラムを作ったとして、学校のカリキュラムの中でそのような時間を設けることは可能でしょうか。

○小松委員

公立高校のカリキュラムの中にすぐにまちづくりのようなものを入れることができるかという、各校にはすでに決められた教育課程があり、少し難しいと感じます。一方、学校裁量に任されている総合的な学習の時間があり、これを活用するというのも考えられますが、やはり、来年からすぐというわけにはまいりません。少し長い目で見ながらやっていけばできることはあるかもしれません。

江別高校には事務情報科と生活デザイン科という 2 つの職業学科があります。これら職業学科のカリキュラムには、生徒が自由に研究する課題研究という科目が設定されています。その中では生徒がまちづくりや地場産品を利用した商品作りにたずさわることができますし、商品開発をしようという動きもあります。

○龍田委員

大学が活躍するまちづくりというのは、大学を活用できていないから、これから活用しようということでしょうか。そうであれば、私は遅すぎると思います。大学生が江別を見ていないという現状を踏まえて、もう少し前の段階の施策が必要ではないでしょうか。また、意見交換会の中で様々なことをお聞きしていると思いますが、もう少し幅広く意見を聞いていただきたいと思います。

私が青年会議所の事業を通して知りえた大学生は、完全に江別というものが眼中にないという人も多くいらっしゃいます。そのようなことがあり、大学生に何かを働きかけるということはタイミングが遅すぎると思います。

先日、横浜で青年会議所主催の地域創生に関する会議に参加しました。全国の事例の中で、U ターンで戻ってくる人が増えているということが多く発表されていました。

地元に戻ってくる理由として、愛郷心の強さがあげられていましたが、地元のお祭りであったり、ボランティアに参加することで地元の方と知り合いになったりということでは思いが強くなるということでした。そして、その時期は高校生くらいまでが多いということですので、その間に地元と密接な関係を作らなければならないのではないのでしょうか。私は、この点で大学が活躍するまちづくりという施策がニーズに合っていないと考えます。

○澤井座長

大学生に愛着を持たせるのは遅いのではないかというご意見でしたが、私は有効だと思っています。

北海道情報大学では、地元である江別市の企業や団体とゼミ単位で共同研究しています。ゼミ単位なので関係する学生は限られますが、たとえば、ゼミの7～8人の中には2～3人が好感を持つようになります。もし、市内の団体と付き合いがなくなってしまうと、そういうこともなくなりますし、大学生でも機会を増やしていくことは遅くはないと思います。

地方創生の関係で、4 大学連携検討会議というものも別にありまして、いろいろ検討しているところです。新しい取り組みで、ゼミ単位ではなくもう少し多くの学生が企業や団体と共同研究などができれば、先が開けるのではないかと期待しています。

○龍田委員

私の意見も、大学に対する働きをやめるべきだということではなく、大学生になるまでを手厚くしてはどうかということです。それによって、大学での効果も見込めるのではないのでしょうか。

北海道情報大学では、江別市出身者の人数は把握されているのでしょうか。

○澤井座長

数字としてはつかんでおりませんが、江別市出身は感覚としてあまり多くないと思います。事務局はいかがですか。

○事務局

龍田委員のお話にありました、大学生のうち江別市出身者の数ですが、過去にも集計しようとしたことはありましたが、市が持ちあわせている情報ではわかりませんでした。次回の会議までに可能な範囲で確認し、お示ししたいと思います。

○龍田委員

市としてはどのくらいの割合とお考えですか。

○事務局

実数は把握しておらず、いまのところ根拠となるものもありません。

ただ、市としては江別市の出身者であるか、市外からの転入者であるかに関わらず、江別に関心をもってもらい、定着につながるような事業を検討しています。具体的には、インターンシップや自治会のボランティアに参画する機会を学生に持ってもらい、市内での就職や定住のきっかけづくりとなるような内容です。

○龍田委員

江別市の出身者と市外から転入してきた方を同じ括りで考えられているということだと思います。しかし、特に江別市の出身者が市外に流出するのは痛手だと思いますし、江別市の出身者に手を打つほうがより効果的だと思います。そうしたことから、データを把握したほうが良いと思います。

○澤井座長

事務局はデータの準備をお願いします。

○小松委員

江別高校は1,000人弱の生徒が在籍しており、8割程度が江別市出身です。大半は進学を希望しますが、1~2割の生徒は就職を希望します。そのなかで、公務員を希望している生徒も2~30人ほどいますが、江別市は高校生の事務職を採用しておらず、札幌市や他の都市に就職します。将来的に江別市は事務職の採用をする予定についてお聞きできますか。

○事務局

最近の職員採用計画では高卒の新卒採用の予定はないと聞いております。

○小松委員

公務員を志望する生徒は優秀であることが多く、江別市に就職ができれば永住してもらえると思います。ぜひ、市役所も高校生の採用を検討していただければと思います。

○高木委員

4つの基本目標とそれに伴う政策ということが骨子の案に書かれていまして、今後、具体的な取り組みにつながっていくものと思いますが、何につながってゆくのかということがわかりづらいと感じました。

例えば、基本目標①の主な施策(3)雇用の創出と人材育成の支援ということにつきまして、江別市の中で雇用を増やすということが可能なのでしょうか。私の子が就職するときは就職難でありまして、江別での就職をあきらめて札幌に出なければならぬということがありました。地元で就職先が増えれば、地元の子どもたちも安心して生活してゆけるということを感じております。そうなるように、戦略が具体化されてゆけばよいと思います。

大学生アンケートにもありましたが、私の子が就職するときも地元でどのような企業や産業があるのかよく知りませんでした。大きな工場など、誰でも知っている情報もありますが、あまり知られていない企業については、より丁寧な説明やイベントなどが必要かと思います。

また、基本目標②えべつへの新しい人の流れを作るということについて、住んでいる人たちがどのように関わってゆくかということも同じように大事だと考えます。

まちづくりについて、私は過去に、大学の介護関係の講座を受けたことがあり、予備知識がなかったのですが、不安がなくなり大変助かりました。市民の方々がそのよ

うな小さな経験を重ねるといことが大事だと思います。常に新しいものを取り入れるだけがまちづくりではないと感じます。

基本目標③の主な施策である、社会全体で子どもを産み育てる環境づくりについて、皆さんがそれぞれどのように関わっていくのかがつかめませんでした。女性が関わる場というのは限られていますが、社会の底辺で女性が支える役割は大きいので、そのような部分を盛り込むことができればよいというのが私の意見です。

○澤井座長

今日、事務局から説明のあった戦略は骨子ということで、かなり抽象的になっています。これからだんだん具体的な目標や行動計画に落とし込まれると思います。事務局から何かありますか。

○事務局

今回、骨子ということで、大きな施策の方向性を示しています。ここであまり具体的に示してしまうと、今後5年間で書かれたもの以外できなくなってしまいますので、大きな方向性を示したうえで、具体的な施策を肉付けしてゆくことになります。

先ほどのご意見にありました、新しいものを取り入れるばかりがまちづくりではないというご意見につきましては、平成26年度からスタートした総合計画の既存事業も盛り込まれますし、会議で示されたものや、現在検討している新規事業についても同様に肉付けしてゆくものです。

イメージがつかめないということにつきまして、今後、素案を検討する中でお示ししてゆけるとは思います。例を挙げますと、しごとづくりについて、江別市が力を入れている食と農の関連産業誘致や、産業間、産学官連携での商品開発を通じた産業活性化などの取り組みが、具体的施策としてつながってまいります。また、大学生が企業を知らないということについて、マッチングする必要を感じており、基本目標②の中で、大学生が日常から企業を知り、また、自治会など地域と交流することを目的とした取り組みを検討しております。

○高木委員

骨子と、それにつながる事業が一致しなければ絵空事にしかならないと思いますので、うまくつながればという思いで話をいたしました。説明はよくわかりました。

○澤井座長

本日の総合戦略案は骨子ということで抽象的な内容ですが、事務局からは、これを具体的な施策に落とし込むという説明でした。有識者会議では、本当に落とし込めているのかを確認するという位置づけで進めようと思います。

○笠井委員

中間報告と人口ビジョンを見ますと、データだけではなくアンケートなども実施していて、丁寧な分析をしようとしていることがわかりました。

人口ビジョン7ページ目の図表13、5歳階級の有配偶者出生率の説明において、江別市が低いということでしたが、一方で16ページのアンケートでは、結婚で独身の自

由さを失いたくないという意見も書かれてありました。また、19 ページの意見交換会では、結婚や出産に対する経済的なリスクということもありました。結婚・出産に関する分析は、基本目標③若い世代の結婚・出産・子育てを支援するにおいて最も大事なところだと思います。

先週、私は札幌市の会議を傍聴しましたが、そこでは、男女比のミスマッチングについて指摘がありました。その一例として、特に男性が大学卒業後に東京に出てしまい女性のほうが多く残る、非正規雇用などの問題で結婚のリスクを抱えていて結婚できない、シングルマザーの子育ての不安、そもそも女性の社会参画の仕方が変わってきている中で数十年前の施策から何も変わっていない点についての指摘などがありました。

これは札幌市のことなので、江別市ではどうなのかはわかりません。ただし、この方向性の分析を間違ってしまうと、誤った手を打ってしまうことになりかねないと思います。その辺をぜひ分析して、より間違いの少ない、子育て・結婚ができる環境を考えていきたいと思います。

○事務局

男女比についてお話がありました。今回は載せられませんでした。別途分析しておりまして、江別も男性の割合が下がってきております。この点につきましては、分析も含めて次回以降、お示ししたいと思います。

○澤井座長

他にご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

【質疑応答なし】

【事業提案、事例紹介】

○澤井座長

前回、事務局のほうから各団体に対して、地域で連携して取り組めるような施策があればご提案をお願いしたいと依頼がありましたが、何かございますか。

○龍田委員

江別商工会議所単体としてはまだないのですが、全道商工会議所または日本商工会議所では、地方創生に関する意見を自民党に陳情しています。道や国に対するものは市町村と規模が異なっており、陳情を江別市に適用できるかということ、まだ議論が足りないものと思っています。次回以降、資料を作成してお渡ししたいと思います。

○笠井委員

会社の事業ということではありませんが、地方創生に関して北海道新聞とほかの自治体が関わっている例がありますので、紹介いたします。

一つ目は、地域ブランド発信事業というものを11月に東京の池袋で開催し、ここで北海道の中小企業が生産した商品を販売する予定です。

二つ目、昨日、北海道との共催によりU・Iターン推進事業を実施し、100名程度の

参加者がありました。通常、U・I ターン推進は北海道を離れて首都圏で働いている方に声掛けをするのですが、今回は新しい方向性として、札幌とその近郊に住んでいらっしゃる親族を対象としたセミナーになっております。今後も札幌など5~6都市で開催する予定です。

三つ目は内閣官房も提唱しているDMO(Destination Marketing Organization)であり、地域の素材を中心として、地域住民を巻き込み、地域の滞在交流プログラムを行おうとするものです。江別で例えると、小麦とれんがを生かして、市や観光関連だけでなく学生なども加えて検討し、江別の魅力を外に発信するような活動になります。さらに、観光目的で訪れた方が江別に住んでみたいというところまで結びつけるものです。

○成田委員

北海道庁の戦略産業雇用創造プロジェクトの合同企業説明会を江別市民会館で8月4日に開催します。参加事業所は江別市のほか、当別町、新篠津村、南幌町となっており、ハローワークとして事業所に声掛けしたのですが、江別市の会社は半分以下でした。企業側も前向きになっていただければと思います。

また、説明会のパンフレットを市内4大学にも配っております。大学生からの問い合わせも来ており、学生は働く仕事の内容や条件さえ整えば、場所を問わず就職するものではないかと思えます。また仕事では人間関係が良ければ働き続けるということもあると思えますので、人材育成もかねて検討して行く必要があると思えます。

○澤井座長

他にご提案はございますでしょうか。

【その他の発言なし】

4 その他

【次回以降の有識者会議の日程について】（事務局）

5 閉会